

平成19年度 タウンスビル市友好親善訪問団 報告書



周南市



あ い さ つ

この友好親善訪問団は、周南市が姉妹都市交流の一環として、オーストラリアの姉妹都市タウンズビル市との友好親善と相互理解を深めるとともに、国際感覚の豊かな青少年を育成することを目的として実施しているもので、これまでに約200人の青少年がタウンズビル市を訪問しております。

今年度、14回目の訪問団として、中学生9人、高校生2人、同行職員1人の計12人を8泊9日の日程で派遣したところでありますが、各団員は、訪問先でホームステイをしながら、タウンズビル市の人々とさまざまな活動を通して、オーストラリアの伝統や文化などを吸収されるとともに、日本文化の紹介にも努められ、積極的な交流をされてきました。

この報告書は、こうした団員たちの訪問期間中の貴重な体験や感動を、団員を温かく見守っていただいた保護者の方々の感想とともにまとめたものです。

団員として参加された皆さんには、今回の体験で得たことを学校や地域の多くの人たちに紹介していただくとともに、今後の本市の国際交流活動にも積極的に参加、協力していただき、さらには、これからの国際化社会の中で活躍する人になっていただきたいと期待しております。

終わりに、本事業の実施にあたり、タウンズビル市役所をはじめ、タウンズビル市姉妹都市委員会や団員を暖かいおもてなしで受け入れていただいたホストファミリーの皆様、そのほか本事業にご支援、ご協力を賜りました全ての皆様に心からお礼申し上げます。

周南市長 島 津 幸 男

タウンズビル市について

市の概要

タウンズビル市は、オーストラリアの北東部に位置する湾岸都市で、クィーンズランド州では州都ブリスベンに次ぐ第2の都市です。

日本政府がオーストラリアで最初の領事館を開設した都市で、古くから農・鉱産物の積出港として栄えました。

市街地には、公園や街路樹が整備され、美しい街並みを形成しており、都市形態も周南市とよく似ています。

人口：約15万人

面積：約376平方キロメートル



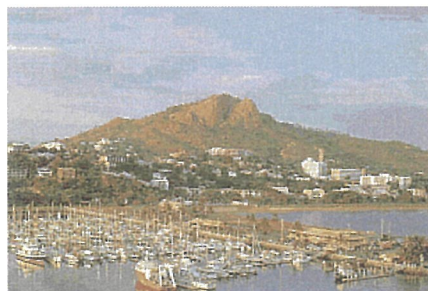
(タウンズビル市)

姉妹都市提携までのあゆみ

旧徳山市では、「英語圏との姉妹都市交流で一層の国際化を」という市民の声を受け、姉妹都市を模索していましたが、平成元年に出光興産(株)を通じ、オーストラリア・クィーンズランド州政府駐日代表からタウンズビル市の紹介がありました。

その後、双方で検討の結果、人口などの都市規模や温暖な気候、国際的な貿易港をもっていることなど、多くの共通点があることから協議が進展し、平成2年に姉妹都市提携をしました。

平成15年4月に合併し、周南市が誕生したことに伴い、同年10月9日にタウンズビル市で新たに姉妹都市提携書に再調印しました。



(キャッスルヒルの眺め)

平成19年度

オーストラリア タウンズビル市友好親善訪問団名簿

【 団 員 】

■中学生

大本 啓介	周南市立太華中学校2年
中野 隆誠	周南市立太華中学校2年
廣谷 華蓮	周南市立鼓南中学校3年
井上 夏実	周南市立桜田中学校2年
広田 拓也	周南市立富田中学校1年
國田 早実	周南市立福川中学校2年
宗近 玲奈	周南市立菊川中学校1年
高橋 秀夫	周南市立周陽中学校3年
日笠 柊利	周南市立岐陽中学校1年

■高校生

尾上 紗弓	山口県立徳山高等学校1年
馬場 恵美	山口県立新南陽高等学校2年

【 同行者 】

野村 泉	周南市役所 農政課
------	-----------

日 程 表

月 日	曜日	時 間	交通機関	行 程
8月1日	水	15:22 17:20 17:45 18:51 20:30	新幹線 在来線 航空機	徳山駅出発（ひかり466号） 新大阪到着 新大阪出発（はるか47号） 関西空港到着、出国手続き 関西空港出発（カンタス航空114便）
8月2日	木	4:55 6:50 7:50 9:00 15:00	航空機 専用車	ケアンズ空港到着 ケアンズ空港出発（カンタス航空2301便） タウンズビル空港到着 市内視察（市長表敬訪問、水族館、博物館、キャッスルヒル等） ホスト校到着後、ホストファミリーと面会 ホームステイ
8月3日	金	8:00 8:30 11:00 11:30 13:40 15:05		ホストスチューデントと登校 英会話教室 歓迎会（モーニングティ） 英会話教室 地元生徒との活動（個別に授業に参加） 下校、ホームステイ
8月4日	土	8:00 9:40 17:00		フェリー乗り場集合 マグネティック島視察（動物園、海水浴、ハイキングなど） タウンズビルへ帰着 ホームステイ
8月5日	日	終日		ホストファミリーと過ごす
8月6日	月	8:00 8:30 10:30 18:30		ホストスチューデントと登校 英会話教室 ヒバラボン鳥獣保護園へ お別れ会 ホームステイ
8月7日	火	9:50 12:00 13:00	航空機 専用車	タウンズビル空港出発（JQ913） シドニー空港到着 シドニー市内視察（オペラハウス、ロックス地区等） ホテル泊
8月8日	水	9:00 22:00 22:05	専用車 航空機	ホテル出発 シドニー郊外視察（ブルーマウンテン、フェザース動物園等） シドニー空港到着 シドニー空港出発（カンタス航空21便）
8月9日	木	6:35 8:54 10:13 14:34 14:57	航空機 在来線 新幹線	成田空港到着 成田空港出発後（成田EXP6号） 東京駅出発（のぞみ19号） 広島駅出発（ひかり463号） 徳山駅到着

思い出のスナップ写真

8/2
(木)

タウンズビル市に到着。この日は市長表敬訪問、市内視察をしました。



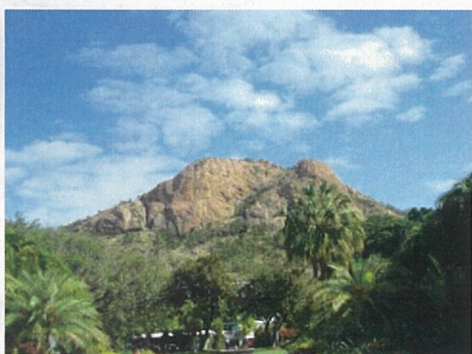
ムーニー市長を囲んで記念写真



団員を代表で高橋くんがムーニー市長にご挨拶しました



馬場さんの挑戦。ムーニー市長とお話しました。



キャッスヒル



キャッスヒルからの眺望



水族館



広田くんが囚人の生活を体験をしました。身動きとれません！

博物館

8/3
(金)

ピムリコハイスクールで英会話の授業を受けました

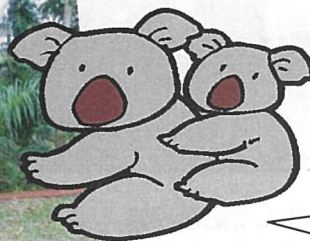
Let's study English!



Cannon先生による英会話教室



みんな熱心に授業を受けてます。



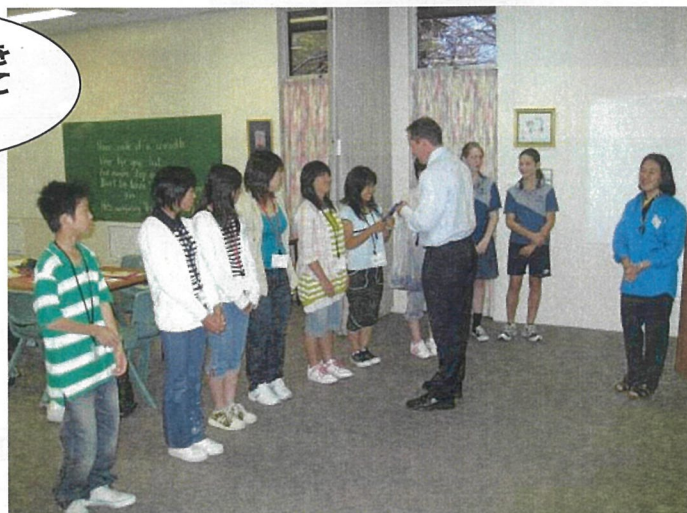
in front of
between etc...

記念撮影ではありません。屋外授業です。



タウンズビルを
楽しんでいて
ください

ピムリコハイスクールの校長先生に歓迎のご挨拶とプレゼントをいただきました



8/4
(土)

マグネティック島を視察しました。



マグネティック島へ向かう船上で



マグネティック島内の動物園で、
珍しい動物達と触れ合いました。

動物園にて



ハイキングの途中、海がとてもきれいに見えました。



ハイキング後の集合写真

…こんなこともありました。



遭遇！！

ビーチで野生のハリモグラに出会いました。



ハイキングコースでは野生のコアラに出会いました。

8/6
(月)

午前中はピムリコハイスクールで授業を受け、
昼からはビラボン鳥獣保護園に向かいました。



最後の授業では「アボリジニアン・アート」に挑戦です。



大変良く
できまし
た。

ビラボン鳥獣保護園にて



係員さんがお話されている間ひざのウオンバット
はじっとしていました。



間近で見るワニは迫力ありました。

お別れ会



お世話になったホストファミリーです。

8/7
(火)

ホストファミリーと別れを告げ、タウンズビルを出発。
シドニーを視察しました。



5日前、ホストファミリーと出合った場所でお別れしました。

8/8
(水)



8/7 シドニー オペラハウス前

8/8 ブルーマウンテンで



オーストラリアは南半球だと実感した二日間です。
タウンズビルとは違い、シドニーは、とても寒かったです。

8/9
(木)

徳山駅に到着
です。
楽しい9日間
でした。



日本に帰って考えるともっと街を見ておけばよかったと思いました。というのも、街の中にはいろいろなサブリイズがあるからです。たとえば、街頭には巨大なクモのレプリカが巣をかけてぶらさがっていたり、他にもとてもユニークなものがあちこちにあるのです。さらに、鳥も多くいて、なんと街の中心であつても人が歩いている横を日本では動物園にしかないような鳥が歩いていて僕は本当にびっくりしました。樹木も多く、自然と人が一体化している街だなと強く感じました。

ホームステイ先のアレックスという同い年男の子と1日目にはお互いに中々話すことができずにいましたが、2日目には慣れて庭でホッケーやバスケットをしてとても楽しかったです。

又、シャワーを浴びようとした時、アレックスが指で「4」としたので何かなと思っていたのですが、そう言えばガイドの人が「ここではシャワーは4分」と言っていたのを思い出し、急いでシャワーを浴びました。他にもびっくりしたのが、お昼のお弁当。アレックスのお母さんが作ってくれたのですが、中身はサンドイッチ、ポテトチップ、チョコレート、フルーツジュース、とってもおいしくて、これって日本ではおやつじゃないかと思いました。そして、売っているポテトチップスは1袋が日本より50円くらい高いけど、270g、なんと日本の3倍もあつて、本当においしいのです。

ホームステイを経験した僕は、オーストラリアの人たちはすごく愉快で楽しく親切で、本当にやさしいとしかいえないような気がします。また機会があつたらオーストラリアに行きたいと思ったし、アレックスのいるタウンズビルに住みたいと思いました。

そして、最後にこの訪問団に参加させてくれた親に感謝しています。

子どもをタウンズビル市友好親善訪問団に参加させて思うこと。

保護者：大本 千鶴

「ただいま」よりも先に、帰国した啓介が迎えた私に見せてくれたのはステイ先の男の子、Alexの画像でした。そして、「あー又会いに行きてえー」は、帰宅後の最初の一言。ごった返したトランクの中からは様々なオーストラリアが次々に飛び出してきました。

オーストラリアで何を見、何を体に埋め込んできたのでしょうか？ 私たち家族は、オーストラリアを床に広げたままで立て続けに「どうだった？ どうだった？」と質問攻めでした。家族の中でオーストラリアを語れるのは、いつもの「啓介」ではなく、少し自慢げにゆったりと構えた“Keisuke”でした。

今回の企画に参加させるに当たり、海外に関心がとか、英語に興味が、など微塵もありませんでした。ただただ漠然と当ても無く日を送る思春期の息子に私は半ばうんざりでした。そんな時、ふと団員募集の広報が目にとまり、校長先生のお力を後押しに、どんどん進む流れの中にあつても毎日のように私と息子の衝突は続き、無駄に日々を過ごす息子。「他の国で今までの当たり前が当たり前でないことを知って、今の生活なんとかしろよ！」これが送り出す前の私の正直な気持ちであり、動機でした。

帰国して3日、既にいつもの啓介がいます。「一回り大きくなって帰ってきますよ。」とは誰の言葉？ 期待に沿わない息子にもなぜか寛容な私。予想に反して一回り大きくなったのはきっと私のほうかもしれません。

子ども達にとって、否、私たちにも名所、旧跡をピンスポットで巡る旅は今後何度でも体験することができるでしょう。しかし、この度異国で当たり前の日常生活を異国の家族と共に過ごすホームステイを経験し、本当の意味でその土地と人々を肌で感じたからこそ、子どもにAlexという「友」に又会いたいといわせたのでしょうか。

今日も相変わらずの啓介ですが、私には「啓介」は“Keisuke”になり得ることを教えてくれた夏でした。

オーストラリア タウンズビル市での思い出

大木 啓介

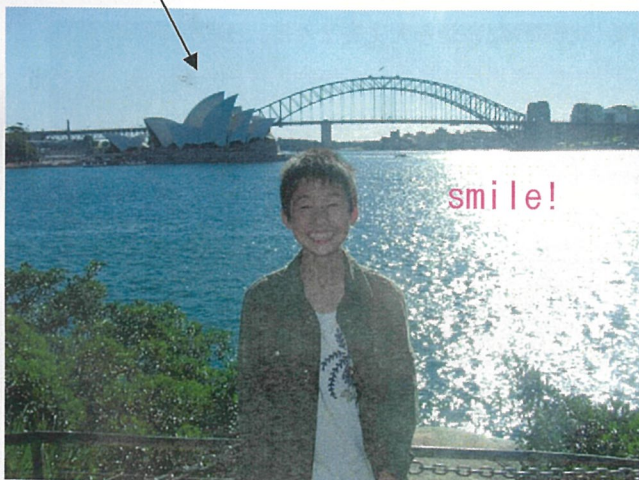


キャッスルヒルをバックに撮った写真。すごくデカくてビックリした。石ばかりだった。

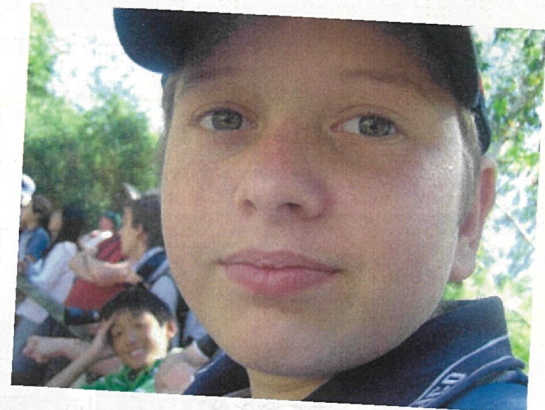


アレックスがふざけてほくにユーカリを食べさせているようにした。後で気づいたのでアレックスに文句を言った。

オペラハウス



マグネティック島の動物園でワニを抱いて撮った。やわらかくてビックリした。



ビラボン動物園でアレックスをふざけて撮った。ビラボンはすごく楽しかった。



ビラボン動物園でアレックスが撮ってくれた写真。すごくふさふさしていた。

オペラハウスを前にふざけて撮った。オペラハウスがすごくきれいだった

タウンズビル市友好親善訪問団に参加して

団員：中野 隆誠（太華中学校 2年）

今回、タウンズビル市友好親善訪問団に参加してとてもよかったと思います。ただの海外旅行では味わえない事ばかりでした。

この訪問団に入団が決定した時は、とても光栄に思いました。はがきが届いた次の日、同じ学校で応募していた大本君も入団できていて一安心した。それから、説明会を通じて、いろんなことが分かってきて、とてもわくわくしてきました。団員たちの顔も覚えて、日に日に「早くいきたいなあ。」と強く思うようになってきました。出発から一週間前の壮行会、島津市長と各学校の校長先生も出席し、段々、すごいことだと自覚をもつようになりました。

いよいよ出発の日になりました。出発前は何回も準備のチェックをして、忘れ物はないでほしいとずっと思っていました。なぜかという、旅行の時はいつも何かを忘れていたからです。新幹線に乗り、親と別れ、出発してから、次にどんなことがあるかわくわくもせず、普通に景色を見てぼーとしていた。関西国際空港に到着し、登場手続き、出国審査の間に始めて他行の人と話した。

飛行機の乗り継ぎなどが終わり、やっとタウンズビルに到着し、水族館、博物館、市長表敬訪問を済ませ、ホストファミリーと面会した。ホストチューデントは、15歳で二つも年が上なので話しにくいかなと思っていたけど、無邪気でとても話しやすかった。しかも、少し日本語も話せる人だった。次の日に、ホストファミリーの父と姉に会った。父はユーモアのある楽しい人で、姉は、日本に一年間来られていたそうで、よく日本語で話しかけてくれました。母は、聞き取りの苦手な僕が「What?」や「Pardon?」と言うと、丁寧にゆっくり話してくれたり、他の分かりやすい言い方で話してくれた。良いホストファミリーにホームステイできてよかったです。

タウンズビル市友好親善訪問団に入団できてとてもよかったです。

子どもをタウンズビル市友好親善訪問団に参加させて思うこと

保護者：中野 陽子

この度、縁あってタウンズビル市友好親善訪問団に参加させることができ、親子共に成長することができたことを大変、嬉しく思っております、と言うのも、親自身が子離れが出来てないために、すぐ子どものする事に、手を差し伸べてしまう傾向がありました。早いうちに、自分の意見・考え・行動ができるようにしないといけないと思っていた時に、この話が子どもから出てきました。親の押し付けではなく、子どもの自主的な思いからだったので、これは親子にとって良いチャンスと思いました。出発までは本当にこれで行って大丈夫なの？何かあっても、泣いても迎えに行く事できない！！英語も、全くしゃべれないから大丈夫？々等、不安は募るばかり。

しかし、親の思いとは逆で、本人はあっけらかん！！としていました。こんな呑気にしていたら、とっても痛い目にあうのは自分だよ！！と、心の中で叫んでいました。

いよいよ、出発です。本当に呑気のまま出発してしまいました。

出発して、一日一日が過ぎるたびに、元気で頑張っているかな？等不安でしたが、8泊9日、一度も連絡が入ることはありませんでした。そして、長いようで短いホームステイの旅は、無事に帰国の途につきました。

帰国してから今日まで、土産話が尽きることはありません。とても楽しくまだ居たかったそうです。この言葉を聞いて安心しました。又、全く話すことの出来なかった英語を、ホストファミリーで必死に勉強したそうです。片言ですが行く前より少しは進歩した気がします。異国の地に触れ、他人と一緒に生活した事をよき思いで、又、人生の中で何か役に立てる事ができたらいいなあと思います。この8泊9日間、親・友人と離れ、友好親善訪問団として参加できたことを、学校・地域にフィードバックし、団員としてのほこりを持ち続けて欲しいものです。

オーストラリア タウンズビル市での思い出

中野 隆誠



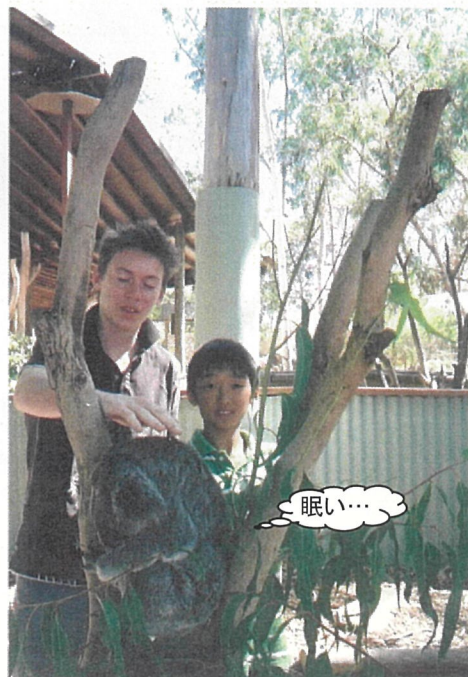
タウンズビルについて初めての観光地
初めての記念撮影 ちょっと緊張した

タウンズビルの博物館で記念撮影!!
ほくが食べ物になっちゃった。



ホストファミリーのジョナサン!!
意外と無邪気で話しやすいかった。

ジョナサンと僕とコアラの写真!!
この動物園で初めてコアラを触った。
とてもふわふわして気持ちよかった。



ピラボン動物園でのワニとの写真
思ったよりお腹が柔らかかった。



タウンズビル市友好親善訪問団に参加して

団員：廣谷 華蓮（鼓南中学校3年）

私は、この訪問団に参加して本当に良かったなと思いました。何をしているときでも、ずっと楽しかったです。特に楽しかったこと、心に残ったことはホームステイをしたことです。ホストファミリーはみんな優しくかったです。お父さんはいつも優しく話しかけてきてくれました。お母さんはたくさんのことを教えてくれました。16歳のジェームズは、学校のことを教えてくれたりしました。13歳のエマとは、一緒にCDを聞いてアーティストについて話したり、庭や川で犬と遊んだりたくさんすることをしてすごく仲良くなりました。

ホストファミリーとフットボールを見に行ったのがすごくおもしろかったです。帰る前の日に山の上に夜景を見に連れて行ってくれたのは、すごく嬉しかったです。お別れの時は、すごく悲しかったです。もっとホームステイをしていたかったなと思いました。私はホストファミリーのことが大好きです。

不安だった英語での会話も思ったより自分の話している英語が分かることに驚きました。しかし、相手のいっていることがわからないときもあり、英語がもっとできればなとくやしい思いをすることもありました。

でも英語での会話はすごく楽しかったです。ホストファミリーが私のためにゆっくり、分かりやすく話してくれたのも嬉しかったです。私が単語を適当につなげたような文になっていない英語を使ったときでもホストファミリーが理解しようとしてくれたり、楽しい英会話ができてよかったです。

この訪問団に参加したことによって夢がたくさん叶いました。私は動物が大好きなのでオーストラリアの動物とふれ合うことができたのもよかったです。一番行きたかったオーストラリアに行くことができ、ホームステイをしたり、たくさんすることをしてこの9日間は一生涯忘れられない思い出になりました。オーストラリアには必ず再び行きたいです。

子どもをタウンズビル市友好親善訪問団に参加させて思うこと

保護者：廣谷 直美

かねてからの念願であったオーストラリアでのホームステイが決まり、本人はとても喜んでいました。2年前に長女が高校生で参加していることもあり、親としての不安は、ほとんどありませんでした。ただ、中3で、受験の真ただ中、部活も最後の試合でもあり、とにかく慌しく出発の日を迎えました。

こんなに長いこと、親子が離れるのは初めてで、晴れがましいわが子とは対照的に淋しくて、ポツカリと心に穴が開いたようでした。

過ぎてみればあっという間の9日間でした。どんな表情で戻ってくるのか、パテてはいないだろうか、いろいろな思いで迎えました。

少し日に焼けて、疲れた様子もなく、満面の笑みでトランクを押している我が子を見たときはホッとしましたし、全てを察しました。この選択は間違っていなかったのだと。精神的なものが体の不調となって表れるのが一番の不安でしたから。

とにかく楽しかった、もう少しいたかったとしきりに言っていました。あまり英語は得意なほうではないのですが、ほとんど通じたようで、コミュニケーションもとれたようです。英語の自信もついたし、大切さも学べたのではないのでしょうか。

名前も英語表記しやすい名前なので、すぐ覚えてもらえ、手紙も早速送っていました。ピアノも世界共通なので、演奏する機会にも恵まれ、話題も増えたようです。

全てが新鮮で、全てがワクワクする。そんな貴重な体験をさせていただいたと感謝しています。自分の中でそれらが宝物となり、財産となると信じています。広く大きな視野を持ち、羽ばたいてほしいというのが親の願いです。

そのために今、何をしないといけないのか、何を学んだのか考えて欲しいなと思います。訪問団として共に参加したお友達、団長の野村さん、旅行者の西嶋さん、本当にお世話になりました。国際交流の機会を与えてくださった皆様方、本当にありがとうございました。

オーストラリア タウンズビル市での思い出

廣谷 華蓮



ピラボンに行った帰りのバスの中で**エマ**と撮った写真です。バスの中では自分達の撮った写真をデジカメで見せ合いました。

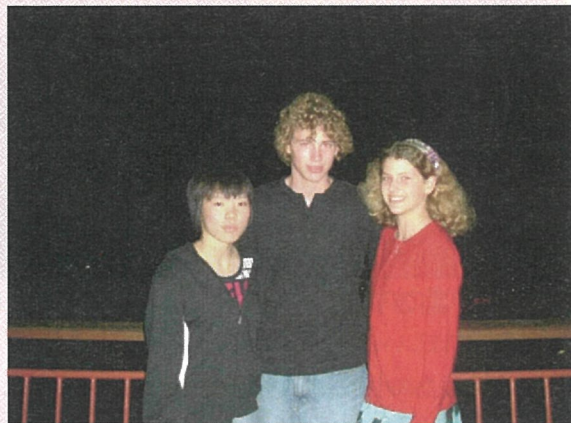


ホストファミリーはみんな優しかったです。

お別れ会で撮った写真です。お父さんはいつもお弁当を作ってくれました。お母さんはいろんなことを教えてくれました。



ホストファミリーと一緒にフットボールを見に行きました。タウンズビル市のチーム、トヨタカウボーイズが勝ちました。すごい盛り上がった試合でした。



お別れ会の後、ホストファミリーが夜景を見に連れて行ってくれたのはすごくうれしかったです。**エマ**と**ジェームス**とはすごく仲良くなりました



タウンズビル市のピラボンという動物園でワニを持っているのをホストファミリーの**エマ**が撮ってくれました。ヘビも持ちました。



タウンズビル市友好親善訪問団に参加して

団員：井上 夏実（桜田中学校2年）

私は、9日間という短い期間でしたが、初めて体験したことがたくさんありました。日本とは違う生活習慣を実際に体験し、とまどうこともあったけど、ホストファミリーの人たちや訪問団のみんなに助けってもらったり、教えてもらったので、なれない環境の生活にとまどうこともなく楽しく生活することができました。

私が、初体験でびっくりした事がたくさんあります。

一つ目は、動物園の動物を触ったり、抱くことができたことです。私が触ってみたかったコアラの毛は、柔らかくフワフワして、おとなしく、寝顔がとてもかわいかったです。

二つ目は、学校は、毎日、お弁当を持参することです。オーストラリアは、小学校の時からお弁当を持参するそうです。お弁当のメニューは、手作りのサンドイッチとクッキーやパンケーキとフルーツとジュースというおやつのような昼食でした。私には少し量が多く感じました。

その他、日常生活で初体験したことは、たくさんありましたが、どれも私にとって良い経験となりました。

また、私は、オーストラリアで誕生日を迎えました。朝は、家族に祝ってもらい、ピムリコハイスクールに行くと、英語の先生と訪問団のみんなに祝ってもらい、お別れパーティーでも、ホストファミリーのみなさんにも祝ってもらい、私はここまでたくさんの人に誕生日を祝ってもらうなんて思ってもいなかったので、とても忘れられない誕生日となりました。

オーストラリアのみなさんと初めての会話は難しかったけど、みんな理解してくれて楽しく会話することができました。日常生活の一つ一つや英会話が忘れられず、本当に良い思い出となりました。

今後、国際交流を深める機会があれば、積極的に参加し、訪問団として体験したこと、感じたことなどを活かしていきたいと思っています。

子どもをタウンズビル市友好親善訪問団に参加させて思うこと

保護者：井上 智美

初めて友好親善訪問団として、国際交流に参加させていただくことになり、オーストラリアの広大な国土の自然環境や、生活習慣、文化の違いなどをしっかり体験してきてほしいと思いました。特に国際交流に大切な人とのコミュニケーションを築いてほしいのが一番の希望でした。

私の娘は、訪問中に誕生日を迎えました。その日にホストファミリーのお母さんが娘に、「今日はあなたの誕生日だから、お母さんに声を聞かせてあげなさい。」と言って下さったそうで電話をかけてきました。私は、突然のことで驚きましたが、ホストファミリーの方の気遣いに変な感激しました。その日は、皆さんと一緒にケーキを食べたりたくさんのプレゼントを頂いたり、記念に残る誕生日となりました。

このような機会を通して、家族との絆や人への思いやりを感じとることができたと思います。

オーストラリアでの日常生活や、文化の違い、家族の方とのふれあいを通して、自分の考えや気持ちを表現し、言葉で伝えることが貴重な経験となったと思います。

最後の朝、ホストファミリーの方と別れる時、楽しく過した日々を思い出し、別れが寂しく辛かったと言っていました。ホームステイでのさまざまな体験から、国は違っていても人から受けた優しさや思いやりは、決して忘れることはないでしょう。

また、自然とのふれあいでも珍しい動物と肌で触れ合ったり、観察できたことに興奮したり、ブルーマウンテンからの壮大でスケールの大きさを体で感じたり、オペラハウスの美しい景観に感動することができたことも良い思い出となりました。

今回の訪問での体験を今後の学校生活やさまざまな機会を活かしてほしいと思っています。また、ホストファミリーの方とも文通を通して、より一層の交流を深めてほしいと思います。

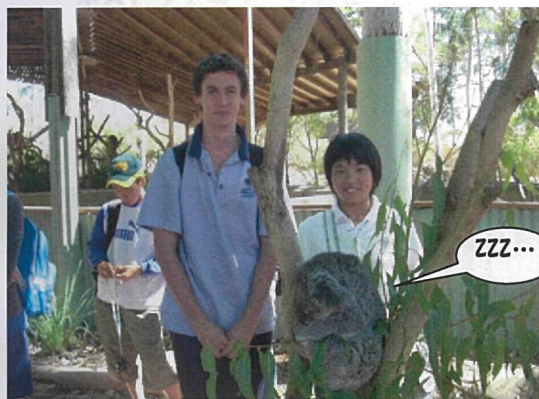
オーストラリア タウンズビル市での思い出

井上 夏実



飛行機の中から撮ったタウンズビルの写真です。山と海に囲まれた美しい町でした。

マグネティック島の山を登り、海のきれいさに感動しました。



コアラは毛がフワフワしていてかわかったです。



初めてさわったワニは、意外と柔らかかったです。



誕生日にホストファミリーのみんなに祝ってもらって、うれしかったです。

Happy Birthday !

タウンズビル市友好親善訪問団に参加して

団員：広田 拓也（富田中学校1年）

市の広報でタウンズビル市友好親善訪問団員募集の記事を見て、行きたい！！

応募用紙を手に入れてみたら、目が飛び出しそうになりました。校長先生の同意書や、担任の先生に書いていただくものがあったからです。

恐る恐るお願いしてみると、少し質問を受けて、書いてくださいました。

応募は「行けますように！」と祈る毎日。結果が分かる日まで、ドキドキでした。

ピムリコハイスクールでホストファミリーと会った時は、ほっとしたのと同時に笑ってしまいそうでした。みんな優しくだったのと、11歳のショーンのニコニコ顔が可愛かったからです。

家に着くとすぐ、ショーンが、「ゲームしよう。」

ゲームしているうちに緊張もとけきました。いきなり、「フットボールやるか？」「YES」

ショーンの所属しているクラブチームに連れて行ってくれ、練習もさせてもらいました。僕はアメフトが大好きなので、貴重な体験でした。チームで使う本物のボールをもらえ、宝物になりました。

マグネティック島で野性のコアラを見られたのは嬉しかったです。でも、抱っこできなかったのは残念！

帰ったら、誕生パーティーをしてくれ、涙が出そうでした。もっといたかったです。

帰りの飛行機では、ゲームができて少しびっくり！

オーストラリアの人たちは、とても優しく、親切にしてくれました。何があっても「OK」

僕は、他人に優しくすることがなかなかできないので、これからできるように努力したいです。そして、もっと英語を勉強して、世界に役立つ人になりたいです。

子どもをタウンズビル市友好親善訪問団に参加させて思うこと

保護者：広田 あゆみ

「こんなの募集しているよ。」と広報を見せた時、即答で、「行きたい。」

参加が決定してからは、英語だよ、現地の学校にも行くみたいよ、等々の親の心配をよそに指折り数えているようでした。

帰国してからは、楽しかった話、嬉しかった話、驚いた話、色々聞かせてくれました。誕生パーティーをしてもらったこと、プレゼントがプロチームのフットボールだったことが、特に嬉しかったようです。（アメフトが大好きです。）

「言葉が通じんでも平気、平気。」何とかなるさ、とのんきな息子を受け入れてくださったホストファミリーの方たちに感謝しています。

意思の疎通は、ジェスチャーでも何とかなるだろうけれど、もっと分かり合うためには話す事、読む事。これからは言葉の勉強もしてほしいものです。

この経験が、どのような形で実を結ぶのか、花を開くのかは、わかりませんが、インターネットで一瞬のうちにつながる時代。世界の中の日本、日本の中の自分を意識してほしい。そして、自分の中の世界を見つめながら、世界について考えていってほしいと思っています。

最後になりましたが、このような貴重な経験をする機会を下さった方々、お世話になった方々、本当にありがとうございました。

オーストラリア タウンズビル市での思い出

広田 拓也

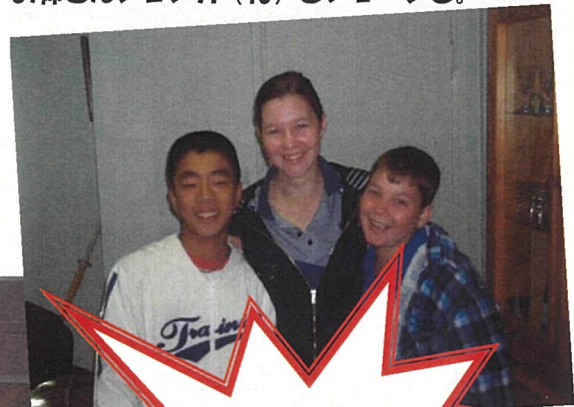


お母さんローズマリーさんとショーンと。
ホストファミリーの庭で



ホストファミリーのショーン（11）と。
ほくよりハイテンションな人でした。

お姉さんジェシカ（18）とショーンと。



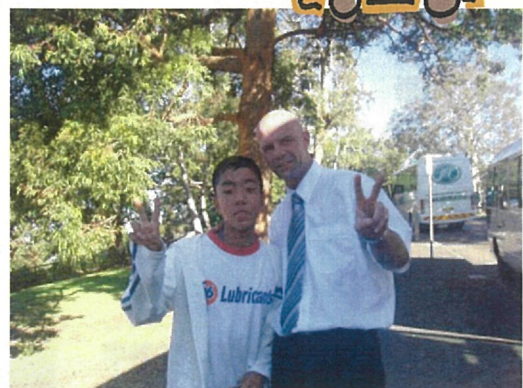
この後ショーンが
「ビッグ・ハグ！」と
言って2人をだっこし
ようとした。



フェアウェルパーティーでホストファミリーのみなさん
が歌をプレゼントして下さいました。

グッとくるものがありました。

シドニーでバスの運転手さんと撮
りました。すごくノリノリな方で
ちょっとふきだしそうでした。



タウンズビル市友好親善訪問団ら参加して

団員：國田 早視（福川中学校2年）

私は、タウンズビル市友好親善訪問団に参加して学んだことは、自分自身が少し成長できたように思います。それは、すべて自分で何でもやらなければいけなかったからです。行く前は不安だらけだったけれど、行ってみると何とかできたように思います。

最初は全然ホストファミリーの言うことがよくわからなかったけど、何とか単語を並べて身振り手振りでやってみたらわかってくれたみたいで嬉しかったです。

オーストラリアの学校でいろんなことを学びました。日本と外国の違いは、一杯あったけど、それぞれ良い所を発見できてよかったと思います。

今度また、ぜひもう一度ホームステイに行くときは、もう少し英語の勉強をしていきたいです。

私がお世話になったホストファミリーはとても私によくしてくれました。参加してよかったです。

子どもをタウンズビル市友好親善訪問団に参加させて思うこと

保護者：國田博幸

3ヶ月前、中学2年生の娘が、タウンズビル市の5日間のホームステイに参加したいとの申し出に、親としては不安に感じ、締め切り間際まで迷っていました。

3人娘の末っ子で、甘やかされ、決断も遅い、わがまま放題の三女です。その娘を親も行ったことのない、言葉も通じないオーストラリアへ、いくら市の訪問団たちと一緒にだとしても、本人の責任の取れる範囲内か、習慣の違うホームステイ先に迷惑がかからないか、本人の不安以上の問題でした。

結局、本人の熱心さ負けて、パスポートの申請をし、何回かの説明会に参加し、壮行会、旅行当日まではあつという間の時間でした。

娘の旅行滞在中、あまりの不安ゆえ、ホストファミリーに国際電話で連絡をとり、無事を確認しました。初めての相手に、話せない英語で、おそろおそろしゃべり、わからない英語を聞き取るには、かなりの想像力が必要で、今、思い出しても恥ずかしいくらいです。

電話口に出た娘と話すとホッと安心でき、不思議なもので、それからは帰国までそれほど心配はなくなりました。

帰ってきた娘の冗談交じりの土産話を聞き、出来た写真を見ると、親が心配するほど、子どもは気弱じゃなく、よその国の家庭でも、結構楽しんで帰ってきた、開放的な国際交流であったように感じます。

天候に恵まれ、事故もなく、大変、子どもにとって有意義なタウンズビル市友好親善訪問団に感謝します。

オーストラリア タウンズビル市での思い出

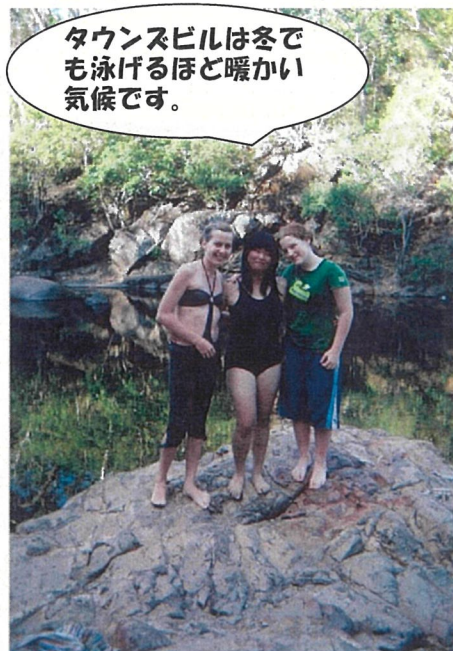
國田 早視



バーベキュー場でゲームが終わって撮った写真



パーティで
ホストファミリーのエミリーとれいなど
さゆみ先輩のホストファミリー



ホストファミリーと川へ遊びに行き撮った写真



shoppingで撮った写真



学校でお別れ会で撮った写真です。
ホストファミリーと

タウンズビル市友好親善訪問団に参加して

団員：宗近 玲奈（菊川中学校1年）

青い空、美しい海、おおらかでフレンドリーな人々、そのすべての光景が心に刻まれた思いを、私は生涯わすれることはない。地図でしか知らなかった遠いオーストラリアの大地がごく身近に感じられた夏である。

この夏、私が滞在したのはクリミーン家。父のディビッドは地質学者で細かい気遣いをしてくれる優しい人。母のモーリンは明るくパワーがあり、小さなことにこだわらない人、長女アラーナは16歳。アウトドア派でダンスと一緒にサイクリングをしたおもしろい姉、15歳の長男キーランは。背が高くとても優しい人、一番仲良しになった次女コートニーは12歳。お茶目でさみしがりの屋の可愛い女の子だった。

この家で5日間を過ごした。最初は言っていることが全く分からず、緊張のあまりYESやNOでさえ言えなかった。そんな私に家族は温かく接してくれた。三日目くらいから何となく言っていることが理解できるようになり、身振り手振りを交えながらの会話らしきものが成立した時は本当に嬉しかった。それからは自分から話しかけるようにした。と言っても単語をつなげる程度のたどたどしい英語だが。

市内観光、ピムリコハイスクールでの勉強、家族との楽しい食事と団欒、文化祭の鑑賞、マグネティック島での海水浴、フットボール観戦、サンデーマーケットでの買い物、ピラボンで動物と触れ合ったこと、そして感動のお別れ会。（帰りたくなかった。）たくさんの事が次々に頭に浮かんでくる。

別れの日の朝、家族のみんなと抱き合い分かれを惜しんだ。父は「手紙を書いてね。」、母は「また来てね、楽しかったよ。」と言ってくれた。

本当にまた行きたい。でもその時は、英語やオーストラリアのことを勉強して、会話を通して意志の疎通ができるともっと楽しいと思う。そして、日本の良さも伝えられたらいいかなと考えている。

子どもをタウンズビル市友好親善訪問団に参加させて思うこと

保護者：宗近 聡子

「お母さんただいま。帰りたくなかった・・・。」出迎えた駅の改札口で笑顔の娘を見つけたとき、心のそこから安堵した。日程表を見ながら今頃何をしているかと無事を祈っていた毎日だったが、「ただいま」の続きの言葉がその時の娘の本心で、9日間の滞在が彼女にとってこんなに有意義であったかを察することができた。

タウンズビル市でのホームステイの話を知ったのは5月、『広い世界を見たい。』という本人の希望である。中一になったばかりで全く英語も喋れない、外国も飛行機に乗るのが初めての経験だ。二、三年後でもいいのではないと思う両親を説き伏せて、今の自分ができることを海外で吸収したいという懇願に私の心も動いた。「玲奈」という名前は、外国人にも覚えやすく、国際的な視野に立って活躍してほしいという願いをこめたが、異文化を知ること実践の一步を踏み出してほしかった。

説明会を重ねるうちに、オーストラリアやタウンズビル市の様子も分かり、手続きや準備で現実味を帯びてきた。その間に娘の気持ちもどんどん高まっていたようだ。出発が近づくとお土産を選んだり、持参物をそろえるのに忙しかったけれど楽しかった。そして当日の心配をよそに娘は非常に落ち着いた様子で「行ってきます。」と笑顔で出発して行った。

迎えの車の中で9日間の滞在であったことを一気に話し始めた。一番印象深かったのはホームステイでホストファミリーの温かさ優しさに包まれて、英語が全く話せなくてもコミュニケーションが取れたこと、家族の一員として生活したことが何より大きな自信になったことだ。

人とのつながりや絆は、国や言葉を越えても深められる貴重な体験を通して、娘の人生観は変わったようだ。『広い世界を見たい。』と言った娘が一回り大きくなって帰ってきたことを親としては嬉しく思う。そして、このような機会に恵まれたこと、多くの方々のご尽力を心から感謝している。

オーストラリア タウンズビル市での思い出

宗近 玲奈



ホストファミリーのお父さんとお母さんです。
とても優しい人でした。



カレン先パイと先パイのホストファミリーのエマと私。フットボールの観戦をしているところです。カウボーイズを応援しています。



我が家の犬より
だいが重かった！

ビラボンでコアラを抱っこしたときの写真です。コアラは毛がフサフサしていました。



海がすごくキレイでした

マグネティック島で泳いだ後の写真で



オペラハウスの前で撮りました。
海がとってもキレイでした。



僕が学校の先生にホームステイの応募があるよと言われたのがこの「タウンズビル市友好親善訪問団」との出会いでした。

第1回の集まりの時、メンバーと会うのがとてもドキドキでした。会ってからは正直やっていけるかななんて思ったこともありましたが、出発当日になってからやっといろいろな人と話して楽しくなってきました。

オーストラリアに着いてホストファミリーの家に泊まるようになりました。ホストファミリーと会う時が一番緊張しました。1日目はまだ英会話が難しくジェスチャーをまじえながらでもありました。その日はおどろきの1日でした。それは予想していた以上に昼間は暑く、朝晩は寒くて、これが冬か?と思いました。だからこれらに慣れるまでがとても大変でした。2日目は、午前中に英会話教室をして昼からは地元生徒と一緒に授業を受けました。授業を地元生徒と受け、自分のクラスがないなどたくさんの事にびっくりしました。3日目は、風邪をひいてしまい1日中ベッドの中にいてとても悲しかったです。4日目は午前中にサンディマーケットに行きお土産などを買いました。そこは、日本よりもとてもにぎやかでとても楽しかったです。5日目は本当に悲しかったホストファミリーとのお別れでした。今思い出すだけでも悲しくなります。その後、オペラハウスなどに行き、6日目は、ブルーマウンテンに行った。とても高く寒かった。7日目はショッピングをして日本に帰った。この9日間は本当にあっという間だったなと思う。2つの動物園に行ったがコアラがかわいかった。この9日間で一番楽しかったのは、お別れのディナーパーティーです。みんなで遊んで食べて楽しかった。このホストファミリーと出会って僕は本当に感謝しています。本当に5日間が楽しかったです。DVDを見たりショッピングに行ったり遊んだりしてとても楽しかったです。ここで学んだことを将来に活かしていきたいです。そしてこの旅に行かせてくれた親に感謝したいです。

子どもをタウンズビル市有効神前訪問団に参加させて思うこと

保護者：高橋良太

5月に我が家の長男(中学3年生)より、海外ホームステイに参加したいとの願いがありました。ホームステイの日程は子供の夏休み期間中の8月1日～9日までで、且つ、子供の部活動(軟式野球)も終わりにするというタイミング的にも良く、かわいい子には旅をとの思いも手伝って、オーストラリア・タウンズビル市友好親善訪問に応募させて頂きました。

長男は生まれてこのかた15年間ずっと一緒に暮らしてきましたが、9日間も親もとを離れるのは初めてで、それに海外ということもあり多少の心配もありましたが、長男からの『生の英語と海外の文化に触れてみたい』との積極的な気持ちを尊重し、また、親の子離れも大事と思いつつパスポート等の準備を始めておりました。オーストラリア旅行経験の友人に訊ねたところ、タウンズビル市を含む東部は気候も良く、自然も豊かな町並みとのことで、インターネットにてオーストラリアやタウンズビル市を調べれば、調べるほど親の私が子供のかばん持ちで行きたいと思いました。8月1日に徳山を出発して、2日後の昼過ぎに長男よりコレクトコールにて、無事到着とホームステイ先のご家族の人柄に安心させられる国際電話を頂き、やはり子離れしていない・・・? 自分を感じておりました。

今回のタウンズビル市友好親善訪問ではホームステイを中心とした日程となっており、オーストラリアの一般家庭の中で同世代の若者やホストファミリーと一緒に暮らすことは、コミュニケーションを抜きに出来ない為、必然的にコミュニケーションを要求される。

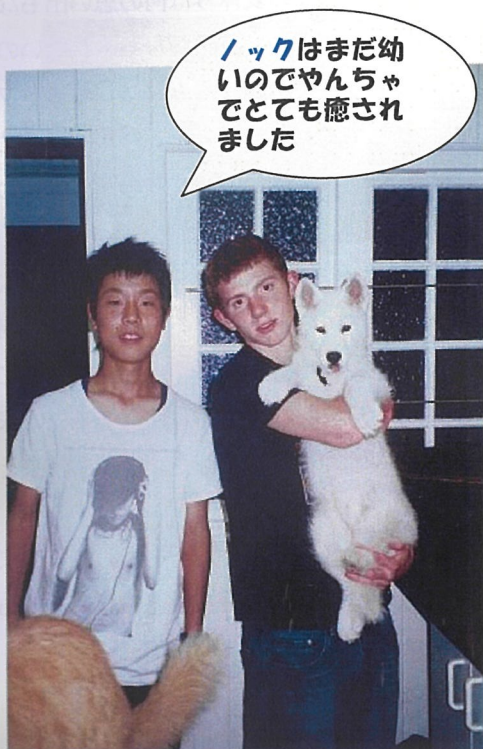
中学生による英単語を並べる会話でも、上手く相手に伝わったり、理解できたという事を長男より聞き、このホームステイによるコミュニケーション経験が、国際化がますます進むこれからの社会に出て行く、子供たちに大きな糧となっていることを期待しております。

長男よりホストファミリーとの交流話を聞きますと、国際化に必要なのは、海外旅行や視察等ではなく、言葉の壁を越えたコミュニケーションやその能力にあるように感じさせられました。今後も、周南の若い人たちにホームステイを経験して頂き、国際化に対応できる人材の育成を支援して頂きたいと思います。

最後に周南市長様をはじめ、国際交流担当の方々には色々とお世話になり、ありがとうございました。

オーストラリア タウンズビル市での思い出

高橋 秀夫



お別れパーティーの後にホストファミリーのアイサックと犬のノックと撮った写真です。



このワニは予想以上に軽くてビックリしました。バックの湖は柵がなく、何度か落ちそうになりました。



ホストファミリーのお母さんとノックと撮った写真です。かわいかったノックを思い出させる一枚です。



お別れパーティーの時に歌を歌ってくれた時の写真です。アイサックはとてもシャイでしたが、音楽や映画などを通じてとても仲良くなりました。この時アイサックは写真を向けると恥ずかしがって顔をそむけました。



タウンズビルの動物園のコアラとの写真です。コアラは予想以上にやわらかく、かわいかったです。抱いたときに「キュッ」と握る仕草がかわいかった。

タウンズビル市友好親善訪問団に参加して

団員： 日笠 柎利（岐陽中学校1年）

この訪問団に参加できたのは、母が広報で見つけたからだ。さもないと、ぼくの夏休みは何の思い出もない平凡な夏休みで終わっていたはずだ。それは今だから言えることで最初のほうは、「英語がしゃべれないのにどうしよう。」みたいな感じて正直、行きたくなかった。けれどオーストラリアにいったら、ホストファミリーは辞書などの文や文字のところを指さしたり、日本語を混ぜて話してくれたりしてとても親切に教えてくれ、とてもよく分かりました。また、ぼくもジェスチャーや単語をただ並べて話したりしたら意外と伝わりました。

オーストラリアに行くととても印象に残ったことがいくつかあります。まず、一つは、オーストラリアの人はとても親切で優しいことです。先ほどのように本などを使って伝えたい事を、ぼくが分かるまで何回も何回も教えてくれたり、マグネティック島に行く時には、半ズボンを貸してくれ、日焼け止めクリームまでぼくにくれました。もう一つは、とてもすばらしい自然に囲まれていることです。ぼくの行ったホームステイ先の家の周りにはもうすごかったです。野生のカンガルー、ポッサム、ワラビー、フクロウがいました。ぼくも将来そんな家を買って住みたいです。

ぼくは、このホームステイを通して、何事もやろうという気持ちがあればできるということを改めて学びました。英語力を上げることはできなかったが、ぼくにとってはかけがえのない、生涯忘れることのないとても大切な思い出となりました。本当にこの訪問団に参加できてよかったです。

子どもをタウンズビル市友好親善訪問団に参加させて思うこと。

保護者：日笠 直子

徳山駅で息子を出迎えたとき、「どうだった？ 楽しかった？」の問いかけに対して、「楽しかったよ。」と、疲れた表情の中にうっすら涙が見えた。本当に行かせて良かったと思った。彼は、友達との別れなどにとても涙もろい。ホストファミリーとの別れがとてもつらかったようだ。

出発前は、英会話がほとんどできないのに行く決めてしまい、日常英会話の本に読み方を片仮名で書いていた状態だった。

「身振り手振りで何とかなるよ。」と言っても、やはり不安があったようだ。

でも帰国後、うれしそうに、しかも、自慢げにホストファミリーのことや動物園、海でのことなど話してくれるのを見て、いい思い出になって本当によかったと思った。オーストラリアと日本の違いなどいろいろおしえてくれ。

「どっちがいい？」と聞くと、決まって「オーストラリア」と答える。元々、田舎で自然と触れ合うことが好きなので、山や海や動物たちと遊べたのも気に入った要因だろう。そして何より、人の優しさ、思いやりに触れ、言葉は違っても気持ちは通じ合うことを実感したようだ。

夢のような日々のは、宿題の山の現実が待っている。昔は私もそうだったなと思い出しながら、がんばれとわが子を見守る毎日である。

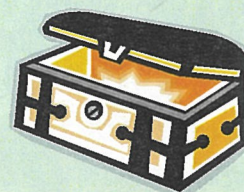
最後になりましたが、このような機会を与えてくださり、とても感謝しています。また、同行しお世話してくださったお二人にも、ありがとうございました。

オーストラリア タウンズビル市での思い出

日笠 栞利



ホストファミリーたちと一緒に撮ったほくの大切な宝物の写真です



リアム君とお父さんと一緒に山に登ったときの写真です。ながめが良かったです。



ビーチの近くの広場で昼食を取っているところです。魚のフライがとても美味しかったです。



動物園でワニを持っているところです。皮がとってもやわらかかったです。



動物園で撮ったコアラです。毛がやわらかくとてもかわいかったです。

タウンズビル市友好親善訪問団に参加して

団員：尾上 紗弓（徳山高等学校1年）

今回の訪問団への参加は、私にとってとても貴重な体験でした。初めて海外に行き、日本との大きな違いを肌で感じることができました。

日本との決定的な違いは、タウンズビル市は冬だけれどそれほど寒いとは感じなかったことです。昼に回りを見渡すと、ほとんどの人が半そででした。でも、夜になると少し冷えることがあったかなと思います。

他にも、違っていることがたくさんありました。植物がたくさんあり、道路はとても広がったです。ホームステイ先の人たちは、暇な時はベランダで本を読んだり、とてもまったりと過ごしていて、オーストラリアの人はおおらかな人だという理由が少し分かったような気がします。

ホームステイでの日々は、本当に毎日が楽しかったです。皆がとても優しく、私と一生懸命話をしようとしてくれたことが、一番嬉しかったです。一番印象に残っている事は、6日のパーティーが終わった後、丘に登って星を見たことです。日本と違いとても星がたくさん見えて、北斗七星や南十字星を見ることができました。星の一つ一つが輝いていて、とても綺麗でした。

このほかにも、ピムリコ学校の文化祭を見に行ったり、月一回あるフリーマーケットにいったりなど、とても充実した毎日を過ごすことができました。

今回学んだ事を忘れずに、これからの生活に役立てていこうと思います。

子どもをタウンズビル市友好親善訪問団に参加させて思うこと

保護者：尾上 和男

「オーストラリアに行きたい!」と突然に娘が言い出しました。兄が中学生のときにカナダへホームステイした経験談を聞いて自分も海外へホームステイしてみたいとずっと思っていたみたい。

南半球にある国だから、日本が夏なら今は真冬! 他にはカンガルーにコアラに先住民のアボリジニがいて、エアーズ・ロックという聖地があって、あまり高低差がないから、車椅子の日本人が横断したって聞いたような……。イアンソープっていう水泳選手がいたし、サッカーや野球が急に強くなった国、そんな浅い知識しかない現状! ステイ先がタウンズビルで、周南市と姉妹都市、真冬でも朝晩以外は暖かく、グレートバリアリーフの近くにあることがわかり興味津々。

ホスト先へ事前に手紙を書くからと辞書を片手に英文作成に取り組む娘。こんなに真剣な眼差しを見たのは久しぶり。いつも甘えている姿とのギャップに成長したことを実感してしまった。初めての海外旅行の準備も母親と一緒にテキパキとしている。

「日本から約8時間の距離にあり、時差もほとんどなく、雪がふることもないそうだよ!」と心配かけまいとしている娘の気持ちがありがたい。親の気持ちも考えてくれるようになっていたとは、まだまだ子どもと思っていたことに反省させられた。国内線の飛行機には何度も乗ったことがあるし、時間が長いだけだからと気楽に送り出してみたものの……。寒くないだろうか? 食べ物がお肉ばかりでうんざりしていないだろうか? 女の子だから怖い目に遭っていないだろうか? と仕事合間に心配する自分がいたが、仕事の忙しさもあり、程なくして帰国しての言葉が「楽しかったあー! 驚いたのはとにかく日本製の物がたくさんあった! 車やお菓子や……!」心配するようなこともなく、ホストファミリーに良くしていただき、ステイ先の姉妹とも英語で意志の疎通がとれたみたいで、大喜び! 「資格もとりたいけど英語の先生にもなりたい!」と夢を語るようになった。英語が大好きだから欲張って頑張ってみるのもいいのではないかと思う。この訪問団に参加させていただき、貴重な体験と視野を広げる機会を与えていただいた多くの関係者の方に感謝します。

オーストラリア タウンズビル市での思い出

尾上 紗弓



綺麗な風景の見える所で撮ったものです。
左が13歳のアラナで、真ん中がカーラです。
2人ともとても優しくしてくれました。



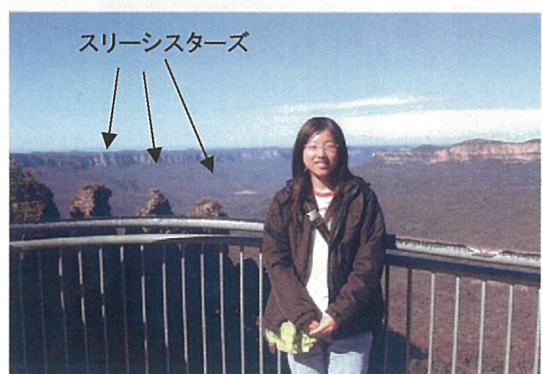
ビラボンで初めてコアラを抱きました。
とても可愛くてぬいぐるみのようでした。



動物園（マグネティック島）での全体写真です。
私達のためにわざわざ時間をさいてくれました。



シドニーに行った時撮ってもらいました。初めてオペラハウスを見れて嬉しかったです。



ブルーマウンテンに行った時のものです。
スリーシスターズを見ることができました。でも、とても寒かったです。

オペラハウスとハーバーブリッジが綺麗に撮れるビューポイントで撮りました。



タウンズビル市友好親善訪問団に参加して

山口県立新南陽高等学校 2年 馬場 恵美

タウンズビル市は、美しいエメラルドグリーンの海に囲まれた自然豊かなところだ。そのせいか住んでいる人たちは温厚で、初日にお会いした市長も気さくで優しい方だった。

私にとって初めての海外で9日間ホストファミリーと生活を共に生活するということは不安やそれ以上に、知らない土地で自分はどんなことが吸収できるだろうという楽しみでもあった。

タウンズビル市での生活は、毎日が驚きと発見の連続だった。16歳で車の免許が取得できることや18歳で飲酒が可能なこと。例を挙げるときりがない。その中で私の一番の発見は、水不足の問題と戦争のあとが残っているということだ。1年のほとんどが晴れのため、水不足はかなり深刻な問題らしい。4分シャワーといって時間内にきりあげようという方針があるくらいだ。

また、第二次世界大戦中に唯一日本軍がオーストラリアを攻めた。キャッスルヒルという山にはそのときのオーストラリア軍の監視場所が今も残っていた。他の山には火薬の貯蔵庫があった。そんな光景を見ると敵国だった日本人の私が今この地にいられることを変に感じた。

9日間というホームステイプログラムはあっという間に終わった。私はタウンズビル市への訪問を経て、生まれや育ちが違っても思いは伝わるし笑いあえることを学んだ。その笑顔に私は何度も救われた。コミュニケーションをとるのが難しかったのは事実だけれど、またこのような企画があれば参加したい。

子供をタウンズビル市友好親善訪問団に参加させて思うこと

保護者：馬場 一隆

今回、参加することになったのは、娘が学校にてこの企画を知り是非参加したいと言う希望と兄も高校生の時にオーストラリアに1ヶ月ほどホームステイしたこともあり参加させることになった。社会人になるとなかなか行くチャンスに恵まれることもないし、良い経験になればと考え行かせることにした。

初めての海外、しかもホームステイなので緊張するかと思ったら意外と余裕の表情。現地に到着したらホストファミリーより直ぐに電話が、妻がでたらいきなり英語でびっくり、娘と代わってもらい話を聞くと気さくでいい人達だし、娘は生来、外面が良く愛想もいいのですぐに溶け込めた。言葉は通じなくても心は通じたようだ。

帰って来て驚いたのは、戦争で日本が唯一オーストラリアを攻撃し、年配者には日本への違和感が未だにあることを気にしていたことだ。娘はむしろ私自身も戦争の事は知らないが現地では気になったようで平和の大切さを知ったようだ。

現地での生活の中では、各自が自分のことは自分でやることに気付いたようである。しかしながら日本では親が何かと手伝ってあげることが多く、我が家でも妻がぶつぶつ言いながらもつい面倒をみている。私も娘には甘いようだ。

わずかな間の経験ではあったが何かを見つけて来たなら良いと思う。ただ何を見つけたのかは分からない。他人の飯を食ったことはなにより一番の経験であろう。

最後に、今回の企画に参加させていただき関係者の皆様には大変お世話になり感謝の気持ちでいっぱいです。

オーストラリア タウンズビル市での思い出

馬場恵美



フォーモーススタジアムを後ろにみんなで撮った。



フォーモーススタジアム
フットボールを見に行った。フットボールはオーストラリアでとてもポピュラーなスポーツ。



ホストファミリーのキャンティスの学校のミュージカルを行ったホールを後ろにしてママと撮った。パパがカメラマン

注) 心霊写真ではありません。
カメラマン (パパ) のタバコの煙です

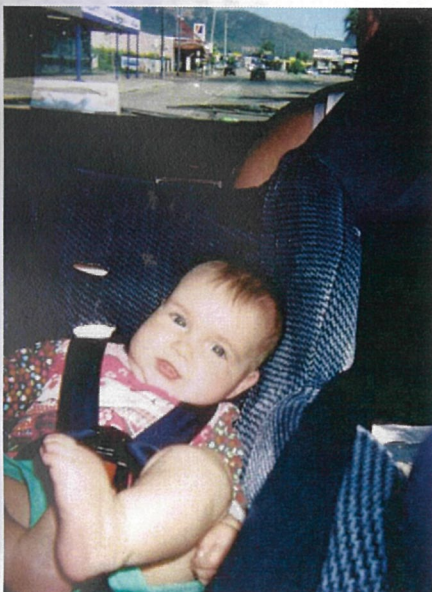


左の同居人のハナと撮った。カメラマンはママ。
ホストファミリーはみんな優しかった。

パフロバ (オーストラリアの焼き菓子)

メレンゲを低温で一時間くらいかけて焼く。フルーツソースをかけて食べる

甘くておいしかったです！



ホストファザーとマザーの孫。5ヶ月の女の子でチャーリー。キャンティスのお姉さん夫婦の子供で遊びに来ていた。

訪問団に同行することが決まってから、これまで訪問団に同行された先輩方に声をかけていただき、タウンズビル市の様子や、訪問中のアドバイスなどをたくさんいただきました。共通してみなさんが最後に話されるのは、「とにかく、タウンズビル市のみなさんはおおらかでやさしい方ばかりだから大丈夫」という言葉でした。

その言葉通り、タウンズビル市の方々は温かく、つたない私の英会話を、真剣に聞いてくださいました。また、出会うたびに、「楽しんでいますか?」「楽しんでいてね」と、声をかけていただきました。

私のホストファミリーのロンダは、仕事から帰ってきて疲れているにも関わらず、夜遅くまでずっと一緒に過ごしてくれました。「出国前、周南市に台風が近づいていたので心配している」と話すと、一緒にインターネットで天気状況を調べてくれましたし、仕事でイギリスに行くお友達のお別れ会にも同席させてもらいました。私が滞在している間、プライベートな時間の全てを私のために費やしてくれました。滞在中、心からタウンズビル市を楽しめたのは、ホストファミリーのおかげです。

同行者として、団員の行動を見守ってきましたが、最初は無邪気にしか思えなかったみんなの表情が、少しずつ変わっていくことに大変驚かされました。

団員のみんなは、出発初日から元気よく活動的でした。海外へ行くのは初めて、飛行機に乗るのも初めてだという団員がほとんどだったのですが、不安な表情は見られず、期待からでしょうか、いきいきとしていて、見るもの全てを楽しんでいるようでした。

そんなみんなが初めて緊張した表情を見せたのは、ホストファミリーと初めて対面するときでした。ピムリコハイスクールでホストファミリーを待つ間、みんな所在無く、落ち着かない様子でした。迎えに来られたホストファミリーとの対面を終え、一緒に帰宅していく姿を見送りながら、「大丈夫かな」と心配しましたが、それは杞憂に終わりました。翌日ピムリコハイスクールに登校してきたみんなの表情は明るく、ホームステイ先で充分にコミュニケーションをとったようでした。中には、ホストファミリーと遅くまで過ごしていたため、寝不足だという団員もいたほどです。日ごとに疲れを見せるどころか、出発時よりもいきいきとしていくことに、本当に驚かされました。

聞いてみると、身振り手振りや、辞書を使ったり、思わず日本語で説明したりと、さまざまな手段でコミュニケーションをとったそうです。その努力の積み重ねが、短い滞在日数にもかかわらず、家族の一員として迎え入れられたのでしょう。私は未だに、ホストファミリーと別れるときにみんなが流した涙を忘れることができません。

それからのみんなは、出発前とは顔つきが変わってきました。自分達の中で自信が生まれたのでしょう。もしかしたら新たな目標ができたのかもしれない。

こうしたみんなの熱心で積極的な姿勢に、本当に感心させられましたし、多くのことを教えられました。

帰国し徳山駅で解散したことで、私達友好親善訪問団の努めは終わりだとは思っていません。

ピムリコハイスクールのコンサートを控えた忙しい中で、迎え入れてくださったホストファミリーや、タウンズビル市の方々から受けたご好意へのお返しに、これからも、さまざまな形で国際交流活動を続けていきたいと思っています。

最後に、今回このような機会を与えてくださった関係者の方々、訪問中、私の不在を支えてくださった職場のみなさん、そして楽しい時間をすごした訪問団のみんなに感謝いたします。

ありがとうございました。

オーストラリア タウンズビル市での思い出

野村 泉



ホストファミリーの**ロンダ**と。
バックの車は滞在二日目にやってき
た新車（日本車！）です。

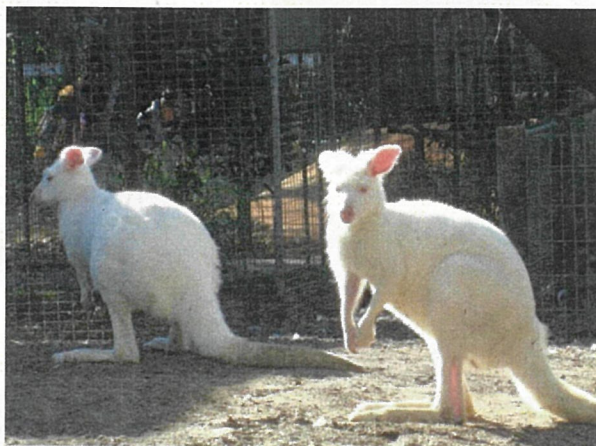
先生、私にハンディをく
ださい！



「フィッシュアンドチップス」をいただき
ました。美味しかった！



雑談中では、ありません。英単語+記録力の
特訓中です。



とっても珍しいホホワイトカンガルーです！見
とれてしまいました。



市内のショッピングセンターで「アボリジニ
アン・ダンスショー」が披露されました。

タウンズビル市街図



発行 周南市総合政策部企画課

〒745-8655 山口県周南市岐山通1-1
TEL (0834)22-8591
FAX (0834)22-8475